












第 27 回 全国小さくても輝く自治体フォーラム in 一宮町

令和 5 年 5 月 12 日 (金)

分科会③「里山の環境保全とまちづくり」

報 告② 「北海道黒松内町・北限のブナを活かしたまちづくり」 黒松内町長 鎌田 満

- 北海道黒松内町では平成元年に住民会議から提唱された「ブナ北限の里づくり構想」を掲げ、都市と田舎の交流を促進してきました。天然記念物「歌オブナ自生北限地帯」を豊かな自然環境のシンボルとして、地域全体に広がる森林や農地、朱太川水系とそこに生息する多様な動植物、地質現象などをコンテンツとしたツアー開催や教育旅行、各術交流フォーラムなど地域活性化を目的とした様々な取組を継続してきました。
- 都市部からの来町を誘発するための地域情報発信と滞在宿泊施設、地場食材を加工した特選品の商品化などが連携した「交流施設」は温泉や道の駅を順次整備することで、受け入れ態勢を充実させて現在に至ります。こういった約 35 年間の取組が徐々に広がりを見せ、隣接 3 町との「はしっこ同盟」やアウトドア企業との連携協定締結と拠点整備に向けた検討が本格化しています。
- この期間に実践した環境保全を基本として活用した地域振興策は外部評価を見る限り、ある程度の成果をあげてきたとの自負はありますが、その間に約千人の人口減少(約 30%減)がありました。この状況を踏まえ、本フォーラムのテーマである「適疎」として本町はどのような近未来像を描くことが出来るのか、この機会に皆様のご意見を伺えると幸いです。

<p>■天然記念物 「歌オブナ自生北限地帯」</p> 	<p>■北海道遺産 (北限のブナ林)</p> 	<p>■清流めぐり利き鮎 会グランプリ受賞</p> 	<p>■マイナスカーボン 宣言</p> 	<p>■新たな環境再生型農業 の取組 グッドニーファーム</p> 
<p>■重要里地里山 (環境省)</p> 	<p>■黒松内町生物 多様性地域戦略</p> 	<p>■生物多様性講演会 2022 鷺谷いづみ先生 (東大名誉教授)</p>   <p>前半 後半</p>		<p>NHK ワールド</p> 
<p>■重要湿地 (環 境省)</p> 	<p>■アユ稚魚放流を やめた朱太川</p> 	<p>■企業との包括連携 協定 (CAA)</p> 	<p>■ブナ北限の里づくり</p> 	<p>SDG s 岩佐賞</p> 